



# 日下部民藝館開館50周年記念 木と文化の殿堂 日下部民藝館で見る 吉田玉男 文楽の世界

平成28年5月、日下部民藝館は開館50周年を迎えさせていただきました。半世紀にわたり高山の観光、文化に関わり活動を続けさせていただけたのもひとえに皆様のご厚情の賜物と厚くお礼申し上げます。

この度は50年の節目を記念いたしまして、皆様を人形浄瑠璃文楽の世界にお誘いしたいと思えます。

江戸時代より大阪の活気ある町人文化を背景に、庶民の娯楽、遊芸として親しまれてきた文楽。太夫、三味線、人形が三位一体となって創り上げる総合芸術といわれ、能楽や狂言、歌舞伎とともに我が国を代表する伝統芸能です。今回ご出演いただきますのは、文楽人形遣いの名跡二代目吉田玉男さん。2012年、第32回伝統文化ポラ賞の優秀賞を受賞され、昨年、2015年に吉田玉女改め二代目吉田玉男を襲名されたばかりの、文楽界で今最も注目される方です。

かつては道頓堀や寺社の境内にあった芝居小屋で、人々は飲食を楽しみ、その場の空間を楽しみ、吹く風や咲く花の香りを感じながら自由に芝居見物に興じたといえます。今回はそんな風情を現代の飛騨高山、日下部民藝館に移して文楽をお楽しみいただきたいと思います。

また、日下部民藝館開館50年のお祝いに、舞踊家谷口裕和さんが特別出演して下さり、舞台を一層華やかに彩ってくださいます。

初夏のひと時、世界で最も高度な人形芝居、文楽の魅力と飛騨の匠が作り上げた空間の心地良さを知っていただく機会となれば幸いです。



よしだ たまお  
吉田 玉男 (文楽人形遣い)

昭和28年大阪生まれ。昭和43年、初代吉田玉男に入門して吉田玉女を名のり、昭和44年朝日座で初舞台。昭和50年国立劇場奨励賞、昭和55年文楽協会賞、平成4年国立劇場文楽賞文楽奨励賞、平成20年・23年には国立劇場文楽賞文楽優秀賞、平成24年第32回伝統文化ポラ賞優秀賞、平成25年国立劇場文楽賞文楽大賞、平成26年日本芸術院賞、平成27年第50回大阪市民表彰、平成27年度国立劇場文楽賞文楽大賞などを受賞。時代物の立役(男人形)を得意とし、その品格ある芸風が高い評価を得ている。平成27年4月に二代目吉田玉男を襲名し、大阪・国立文楽劇場(4月)と東京・国立劇場(5月)において、「一谷嫩軍記・熊谷陣屋の段」の熊谷次郎直実で襲名披露公演を行った。

特別出演  
たにぐち ひろかず  
谷口 裕和 (舞踊家)

昭和52年飛騨高山生まれ。二二〇年以上続く料亭に育ち、西川流、梅津流を経て、26歳で流派に所属しない舞踊家として、本名にて活動をはじめ、東京と高山を拠点に「一門の『青風会』」を主催。歌舞伎俳優をはじめ、広い分野で指導に勤める。評論家・草柳大蔵氏は、著書『生命を燃やしております』の中で、『彼の舞いは真面目そのもので、あれほど手数が多い所作をよくこなしたものと、前途に大きな期待を持たせた。ここが大事なところで、「いまどきの若者は」という表現がオクビにも出しかねるほど、「型」が立派に出来上がっているのである。』と述べ、その実力と類まれな表現力を高く評価している。昨年9月27日には、東京セルリアンタワー能楽堂にて、第4回谷口裕和の会を開催し、特別出演に尾上右近、片岡千之助を迎え、気品ある舞踊を披露した。



たわ 三輪 太夫  
たわ 三輪 太夫



三味線  
つるさ 清志郎  
鶴澤 清志郎



お問合せ先・チケット取扱所  
日下部民藝館  
高山市大新町1-52  
Tel 0577-32-0072  
携帯 090-4861-7023  
Fax 0577-36-0288  
http://www.kusakabe-mingeikan.com/

